

会 議 録

会 議 名	市長とまちなかミーティング
開 催 日 時	令和元年 8 月 9 日（金） 19 時
開 催 場 所	えい中央温泉センター 研修室
出 席 者	市長，副市長，社会教育課長，総務課長，総務課行政係長及び行政係員，市地域女性団体連絡協議会（以下「女性連」という。） 8 名 計 14 名
会 の 概 要	1 市地域女性団体連絡協議会長あいさつ 2 南九州市長あいさつ 3 出席者紹介（双方） 4 市地域女性団体連絡協議会の主な活動について 5 協議事項（対話のテーマ） (1) 補助金の見直しについて (2) 担当職員の協力について (3) 市の現状と今後について
議 事 の 要 旨	5 協議事項 (1) 補助金の見直しについて 3 年に 1 度，今回は令和 2 年度からの予算に対して補助金 の見直し作業を行っているが，まだまだ厳しい財政状況にあ る。行政改革を進めながら支出を減らし，無駄をなくして市 民への補助金のカットはしたくないと考える。 (2) 担当職員の協力について 社会教育課で担当をしているが，定員適正化計画で職員数 を減らしていく方向にあること，社会教育団体に行政が不当 に干渉してはならない部分もあること等から，自立して活動 していただけるような後方支援をしていけたらと考える。 (3) 市の現状と今後について 略
会 の 内 容	
1 ～ 4 略	
5 協議事項	
(1) 補助金の見直しについて	
女性連)	
平成 28 年度まで補助金として 800,000 円だった。	

平成 29 年度から 720,000 円に減額されている。今後補助金についてさらなる見直しがなされる予定があるか。

市長)

補助金も出来るだけ多くもらった方がいい訳ですから。出来る限り補助金のカットは行わない。行革をすすめる。

支出を少なくして少しでも無駄をなくして行って、市民への助成はやっていかなければならない。

女性連)

補助金の額に不満はない。ハッキリ言って一回仕事をして 500 円ですとか 1,000 円です。皆さん（会員）は頑張ってくれている。財政が苦しい中でそこら辺はわかっていただきたい。

副市長)

普通交付税という国からもらえるお金が、厳しいという状況。

財政課長に言わせれば、まだまだ厳しい状況にあるという風に思っている。補助金は 3 年に 1 回見直しをしてきて、今回令和 2 年度からの予算に対して財政課のほうで、現在補助金の見直し作業を実施している。

女性連)

無駄遣いをしていないが、余れば補助金が減るのではないかとというのが頭にある。辛抱して辛抱してやってきているのが事実です。その辺をくみ取って減らさない様にしてほしい。

副市長)

補助団体の中には非常に繰越が多い団体もある。そこら辺は勘案しながらやっていかないといけないと思う。

女性連)

ふるさと納税の返礼品はどうなっているか

総務課長)

ふるさと納税は、ふるさと振興室が行っている。

昨年度は 13 億を超える額。返礼品という事で南九州市内特産品であったり、事務手数料とか、残りはきばいやんせ南九州市基金に積み立てている。

基金利用は 5 つの項目があって、平和に関する事業、地域の活性化に関する事業とかある。（他：福祉の向上に関する事業、教育の推進及び文化の保全に関する事業、市長が必要と認める事業）

そのふるさと納税の使い道については寄付をされた方々の想いというものを実現しなければいけないため、何でもかんでも使ってはいけない。

寄付をされた方の想いを実現する為の事業を知恵を出して見つけなければならぬ。

女性連)

ふるさと納税の返礼品の価格は、販売価格で決めるのか知りたい。

市長)

それは申告した値段でよい。ここにお菓子があるとすれば私は 1,000 円で売ろうと、あるいは 3,000 円で売ってもかまわない。市場にたくさんあるものを、例えばお茶の 100 g を 20 万円だと言っても通らない話でしょうけど、私のお茶は有機だから普通は 1,000 円だけど 2,000 円とかある。

女性連)

卸値だと、首を絞めていくような価格の取り決めになるのかと思った。

市長)

儲かるような価格をつけてください。

副市長)

市内の業者の育成をするという役割も、ふるさと納税制度にある。

女性連)

物産館等で市販より高い商品がある。あまり価格差のない商品（値段）にできないか。

副市長)

特色あるものには特別な値をつけてもいいと思う。野菜は、同じ野菜であつても、有機農業の野菜などは付加価値をつけても良いのではないか。

女性連)

こだわりの商品、こだわりの価格にして売れ残れば、廃棄となる。それではいけないと思う。

副市長)

そこは自分なりに売る工夫をしていただきたい。どうやって売れるようにするか工夫もかなり大事な事ではないか。

女性連)

返礼品はカタログから選ぶのか。

副市長)

ふるさと納税のサイトから選んでもらう。

カタログは愛郷会などに持って行き勧めている。

(2) 担当職員の協力について

女性連)

社会教育課長を始め担当職員の協力をいただいているところですが、今後も社会教育課の所管業務として本協議会に協力をいただけるか。

市長)

社会教育課の担当でやってほしい。

女性連)

議題をなぜ出したかという、県の40団体ある中でなかなか行政とうまくいってない所もたくさんある。

南九州市は、車の両輪のようにうまくいっている。

副市長)

定員適正化計画で職員を減らすこととしている。しかしながら、職員を減らすとなると事務量が増える。そこら辺は、ICTとかAIとかそこら辺を活用しながら事務の活用をして対応していかないといけない。

自主性を持った団体として活動していただければと思う。

社会教育課長)

社会教育団体というのは、私達行政が不当に干渉してはならない、社会教育法に書いてある。自立して頂きたい。

皆様方の役に立てるような、そういう後方支援をしていけたらと考えている。

(3) 市の現状と今後について

女性連)

最後に、現在の南九州市の現状、今置かれている現状、それから今後について市長のお考えをお聞かせください。それも踏まえたうえで、私たち女性団体連合会にご要望とか、期待することとかありましたら、お話いただければと思います。

市長)

4年やっている中で、うまくいったのはあまり記憶にないぐらい、うまくいかない事ばかり。一番は景気が悪い。少子高齢化で過疎化が進んでいる。南九州市はちょっとこれが大きいのかなと思っている。

あまり景気がよくない。特に本市の一番の産業であるお茶が、不利になってきている。それと、昔は川辺仏壇も200億位の取引があったのが、今は12~13億位になっているのでは。それくらい景気は落ち込んでいる。どうしていけばいいのかなと模索をしている。

不合理なこともいっぱいある。文化会館も保健センターも老人福祉センターも体育館も、3つある。昔からあった市に一つしか無いようなものも。全部一つずつと決めてしまうと、その町が寂れてくる。そこをうまく考えながら、やらなければならない。

過疎というのは若い人がどんどん出て行ってしまう。それを止めるには子供達が暮らしやすいような町づくりをしていって、皆さんが豊になって

くれば若い人も住んでくれる。綺麗事を言うが、そういう風にみんながやっていかなければならない。

無駄をなくして、補助金を減らさないようにやっていきたい。

女性連)

なぜこういうことを議題に上げたかという、頼娃に住んでいる人間としては頼娃がすごく衰退してきているのではないかと声をよく聞く。

(施設を) たたんでいくのも必要。市が潰れてしまう。それを避ける為には大きな決断も必要。

市長)

女性の目からみた観点から、目でそういうのがありましたら言って頂きたい。合理化するところも必要。

女性連)

薩南病院が川辺の保有地が上がっていますが、市はどういう計画だったのか。

副市長)

新薩南病院については、(過去)あり方検討委員会で、加世田市街地と南九州市川辺をモデルにしたシミュレーションをした経緯がある。南九州市川辺のほう为新薩南病院としての経営がうまくいくとされている。

三次医療の事を考えると鹿児島市も縦貫道でつながって三次医療の体制からみても、出来れば南九州市内に持って来てもらえませんかといのを、知事のほうに陳情、関係団体と一緒にやって行ったのが発端だった

女性連)

高齢化社会ですので医療施設は重要ですので南九州市内に出来ればともありがたい事だなと思います。高齢化の時代ですので防災無線の内容考えて欲しい。手蓑峠の通行止めで、知覧谷山線とあった。場所がわからない。通称手蓑峠と言ってほしかった。

色々な文書関係にしても高齢者も目を通すんだという事に視点を置いていただきたい。

副市長)

なるべく行政用語を使わないで出来れば一番良いのかもしれませんが市役所の悪い所で行政用語使いたがってしまう。横文字も。

女性連)

やはり親切丁寧なのが大事なのではないか。一般の市民がみんな本当にそういう専門ではありませんので分かって頂けるとありがたい。

副市長)

総務課・行政係長が来ていますので、そこは大事だと思います。

女性連)

市長さん、町民の立場になったというのを念頭においているのでは。気さくですよ。

市長)

私はこれが地ですから。喋ったりする事が好きですから。やはり行政も市民目線で市民の為にという風に持っていかなければ。その為には言葉も柔らかくせんといかんな。難しい言葉は..。

女性連)

簡潔に言えばいいのに丁寧すぎると。全体に伝えるのは難しい事だと思います。高齢化社会ですから。

市長)

今の若い人たちは言葉を選んでしゃべることができる。昔の人は特にしゃべれない。甲子園の球児の人たちも、よか言葉をしゃべる。

女性連)

私ども、女性連に期待するところとか、こういう風な活動をして欲しいという様な事はありませんか？

市長)

女性の目線・観点で見ていくものもあるでしょうね。また色々教えてください。

女性連)

行政の協議会に女性を入れて頂いていて私達の声を聞いて頂けるという場が沢山ある。今後もぜひ進めて頂きたいと思います。

市長)

どうかお願い致します。

女性連)

私達女性の意見を聞いて頂けるというのはありがたい。

私達の側も色々な事を学ばさせて頂ける場でもあるという風に思っている。

市長)

これから高齢化になってきて愛護作業とか、そういうのを高齢化してきて大変だ。特に、川辺の河川敷の草原払いはとても大変。やっていく様な形をとって準備はしている。

女性連)

私達の所は毎月やっている。70歳になって、その人達が来なくなったら結局誰もいない。

市長)

そういう時代は来ると思う。

女性連)

永遠に卒業出来ない。

女性連)

市役所の建設は着々と進めている所か。

市長)

財政が今の試算で 40 億。貯めて 15 億。残りの 25 億が借金となる。負担が多すぎる。合併特例債も期限が令和 4 年度までで、それには間に合わない。今の状況であれば。補助金を貰う事が出来ない。今 5 年延長を全国市長会で要望している。それが出来れば 12 億ぐらいの補助金がある。

準備ができてから、後の未来を考えたら後世に負担がのしかかっていくわけですから、私はじっくりやればいいのかと思っている。

副市長)

いずれ財源が確保できれば前向きに検討していかなければならない。

市長の話にあったように、後年度に負担をかけるようなことは、市長にあってはやりたくない。じっくりやって。目途が経てばスピーディにいくかもしれない。

女性連)

貯蓄をしていたと思うのですが、すすんでいますか。

総務課長)

6 億ほど。

副市長)

15 億位欲しいが、6 億位しか貯まっていない。

女性連)

10 年から 20 年を目途に合併する？

副市長)

平成 40 年。令和 10 年を目標にしていた。

女性連)

人口減というのもありますと、どんどん南九州市に担ってくださる皆様に借金を作るのは、すべきではないと私は思います。

副市長)

結のつどいとかでお世話になっている。来年国体も鹿児島県で開催されるのでご協力の方をよろしくお願い致します。

市長)

来年は全国お茶祭りがあるので、来年は忙しくなります。

副市長)

全国お茶まつりのほうは、茶業振興会の方々が中心になるとは思いますが、けれどもよろしく願い致します。

女性連)

初回だと伺っておりますが総務課としては想像しておられたまちなかミーティングどうだったでしょうか。

行政係長)

こうやってざっくばらんに色々話ができ良かった。1回目にしていい感じだったと受け止めている。

女性連)

気楽にお話できて大変充実したミーティングになった。

先程からありましたとおり、いろいろなイベント、・・・お手伝いさせて頂ければなと思っている。

本日はミーティングさせて頂きまして大変ありがとうございました。